

ニュージーランド視察研修  
～箕面市の姉妹都市ハット市を中心に～

道廣睦子<sup>1)\*</sup>, 古田豊子<sup>2)</sup>, 西地令子<sup>1)</sup>, 杉原トヨ子<sup>1)</sup>, シルバ寿子<sup>3)</sup>

- 1) 大阪青山大学健康科学部看護学科
- 2) 大阪青山大学健康科学部子ども教育学科
- 3) 大阪大学 非常勤講師

A Study tour in New Zealand  
~Focusing on Hutt City, a sister city of Minoh~

Mutsuko MICHIIHIRO<sup>1)</sup>, Toyoko FURUTA<sup>2)</sup>, Reiko NISHICHI<sup>1)</sup>,  
Toyoko SUGIHARA<sup>1)</sup>, Toshiko SILVA<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>School of Nursing, Faculty of Health Science, Osaka Aoyama University

<sup>2)</sup>Faculty of Health Science, Department of Child Science, Osaka Aoyama University:

<sup>3)</sup>Osaka University

**Summary** We took a study tour to New Zealand in order to learn about their general education, food education, and health care facilities for the aged. In Hutt City, a sister city of Minoh City, we visited an elementary school and a facility for the elderly. In Auckland, we joined in a meeting of Japanese mothers who emigrated from Japan, and then a Japanese Supplementary School. Overall, the trip proved instructive, suggested how faculty members could make multidisciplinary interactions, and gave hints about our future research projects.

## はじめに

今回のニュージーランドの視察研修旅行は、大阪青山大学でも学科を越えた研究者が、食育を中心に集まり、研究を開始するきっかけとなった旅行と位置付けることができる。このきっかけは杉原氏と古田氏の同名「とよ子」・「豊子」とがきっかけで、今回のニュージーランドの研修につながり、食育という会に発展した。これが基盤となって、今後の共同研究発展への先駆けとなったと考えることができる。

今回の視察研修は、箕面市の姉妹都市であるハット市の市長夫人のリンダ氏を中心となって企画された。私たちの希望を全面的に取り入れたスケジュールとなり、綿密に計画され実りある研修となった。ここでは、ハット市の小学校訪問、高齢者施設訪問とオークランドにおける日本語補習学校、移住している子供（乳児～幼児）を持つ日本人の母親の集いの会に参加・見学したので研修内容について報告する。

## 1. ハット市の1日間のスケジュール

Aoyama University Professors Lower Hutt Itinerary  
Wednesday 13<sup>th</sup> September 2017

**Host & Driver:** Mrs Linda Goss-Wallace

**Assistant Host & Driver:** Miss Miho MAEDA

**Group Leader:** Toyoko FURUTA

**Member:** Dr Toyoko SUGIHARA, Dr Mutsuko MICHIIHIRO, Dr Reiko NISHICHI

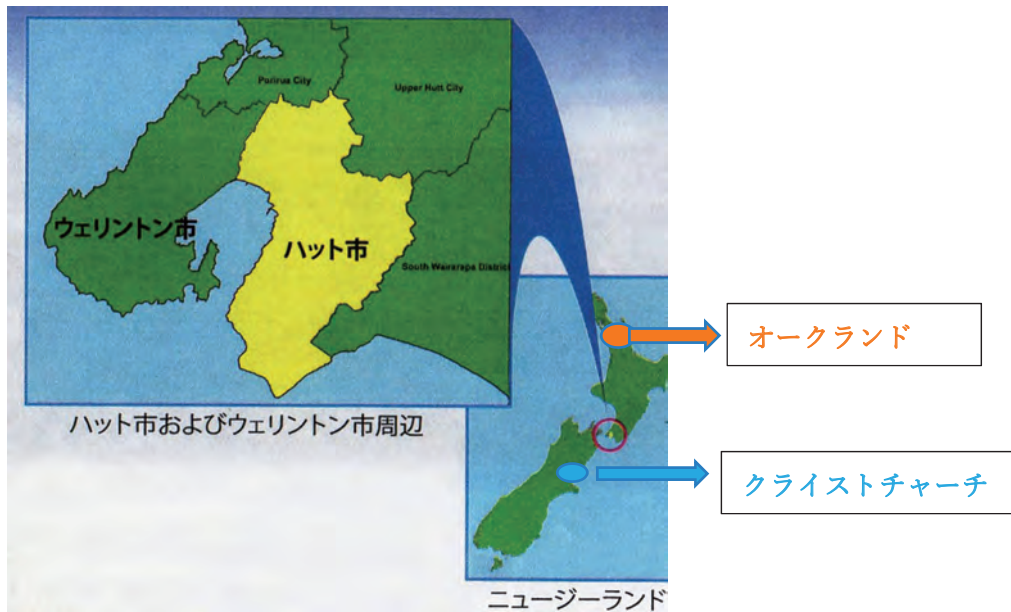
**Assistant Host:** Ms Toshiko SILVA-GOBUICHI

## 2. ハット市の概観

## 1) ニュージーランド・ハット市の基礎情報

- ・ニュージーランドの人口約 430 万人（羊の数は約 3,000 万頭）、面積 27 万 km<sup>2</sup>（日本の約 3/4）時差 4 時間、立憲君主制、公用言語：英語・マオリ語。首都ウエリントン（人口約 20 万人）。
- ・ハット市はニュージーランドの北島南端に位置する市で、首都ウエリントンに隣接している。ウエリント

Time	Activity	Location
8: 30am-9: 30am	Meet Dr Anne Ryan (see Bio below). Dr Ryan is especially interested in meeting Dr Sugihara, Dr Michihiro and Dr Nishichi to discuss the elderly. Toshiko-san required to interpret.	Quality Angus Inn Restaurant
9: 45am	Drive to Epuni School	Linda & Miho to drive the group
10: 00am-12: 00pm	Meet acting Principal Mrs Kim Lupo for FOOD EDUCATION field trip including: *School Garden visit *Preparation of vegetables *Helping in the kitchen *Early lunch with students NOTE: Please bring a cash donation for lunch.	Epuni Primary School
12: 00pm	Drive to Hutt City Council	Linda & Miho to drive the group
12: 15pm	Welcome to Hutt City Council Administration Building	Hutt City Council
12: 30pm-1: 30pm	Meet Ms Erin Adams, Healthy Communities Advisor to discuss children's eating habits and the Healthy Families Initiative. Note: Erin <u>may be</u> joined by a community dietician from Te Awakairangi Health Network.	Hutt City Council Administration Building – Parangarahu Meeting Room
1: 45pm	Drive to Woburn Apartments	Linda & Miho to drive the group
2: 00pm-3: 00pm	Meet Chris Wilson, Manager *Interview elderly residents *Discuss apartment living	Woburn Apartments (via entrance off Whites Line West)
3: 00pm	Drive to Angus Inn	
3: 30pm	Super Shuttle pick up group	Quality Angus Inn Hotel



ンから車で約30分。市中心部には、ウェリントン湾へ続くハット川が流れる自然豊かな町である。ハット市長はレイ ウオレス氏（2010年から現在2期目、前職はハット市市議会議員15年間、53歳）。ハット市市議会議員数12名の構成である。

表1 ニュージーランドの教育制度

6・2・5・3制 義務教育は6～16歳だが、5歳の誕生日の翌日から小学校に入学するのが一般的で、個別入学のため入学式がない。
①初等教育の小学校6年（プライマリースクール 5～10歳（Year1～6）
②中学教育の中学2年（インターメディエイトスクール/ミドルスクール 11～13歳（Year7～8）
③高校5年（セカンダリースクール/カレッジ/ハイスクール 3～17歳（Year9～13）
11年生から年に一度全国統一学力試験（NCEA）を受験しその評価によって進学する大学が決まる。

箕面市国際交流協会荻野勝彦氏著「ハット市の多文化共生」より引用

## 2) ハット市の教育についての基礎資料

ハット市は人口10万の都市であるが、小学校は43校ある（1～6年生21校、1～8年生校17校、1～15年生校5校 計43校）。それはハット市の面積が箕面市の約8倍もあるためと考えられる。したがって多くの小学校は、児童数が100名前後の小規模校である。箕面市の2校とSkypeでつながっているエブニ・プライマリースクールとトイ・グレンスクール共小規模校である。一方大規模校の例としてイースト・ハット・プライマリー・スクールを表1・2に示した。表2のようにニュージーランドの各学校は、1～10に分けられているが、これらは経済的な面やその他学校が抱える様々な事情による。

表2 ハット市及び市内小学校の人種構成など

	ハット市	エブニ小学校	トイ・グレン小学校	イースト・ハット小学校
在校学年	-	1～6年生	1～8年生	1～6年生
docile No	-	2	2	10
生徒数	-	105	105	695
Skype	-	とどろみの森学園と Skype	彩都の丘学園と Skype	-
人種構成 (%)				
ヨーロッパ系	58	14	11	52
マオリ	15	44	59	13
パシフィック系※	10	19	27	4
アジア系	8	15	3	30
その他（中東ラテンアメリカ・）	9	8		2

※太平洋の島々から来た人：ポリネシアミクロネシアからきた人。ニュージーランドの学校は docile No で格付けされている。箕面市国際交流協会荻野勝彦氏著「ハット市の多文化共生」より引用



ラグビーのパフォーマンスをして歓迎する児童



昼食の準備をする児童



野菜ガーデンにて キム校長と児童たち



### 3. エプニ小学校の見学

前日の夜ウエリントンに到着、タクシーでハット市のホテルに到着した。午後9時より遅めの夕食と同時に明日の予定についてミーティングを行った。

朝8時10分にホテルヘリンダ夫人が来訪された。一人ひとり挨拶の後、朝8時30分～9時30分までライアン博士と高齢者問題、特に安楽死や自殺についてディスカッションを行った。その後エプニ小学校を訪問した。

キム校長と挨拶の後、全児童が集合し、ラグビーの試合の前に行うパフォーマンスを披露して、私たちを歓迎してくれた。その後、スクールガーデンを見学、生徒が野菜の準備やキッチンでのお手伝いの情景を見学した後、児童と一緒に昼食した。その日は快晴で暖かく、校庭でそれぞれに輪になり食事をいただいた。「昼食には現金の寄付をしてください」と申し入れがあった。「Koha」はマリオ語で「贈り物や寄付」の意味であり、「昼食のためにそれぞれ小さな現金を寄付してください」を意味する。キッチンでは、食事を準備・調理・提供するために、ボランティア活動をする親やコミュニティのメンバーによって運営されている。受

け取った寄付は、学校の庭で栽培した新鮮なものに加えて、食品を購入するのに役立つ。ランチは週2～3回学校の児童に提供されている。

### 4. ハット市長：レイ ウオレス氏を表敬訪問

我々はサプライズとして、日程にはない、ハット市長のレイ ウオレス氏の訪問を許可された。同日その場で、代表者古田氏が、大阪青山大学 塩川和子理事長の親書を手渡した。



ハット市長、リンダ夫人と共に





市長室にて歓談

ハット市は世界7か所の市と姉妹都市 (Sister Cities) として提携している。箕面市とは、平成7年(1995年)7月16日国際協力都市提携締結し、その後現在までに青少年海外体験交流事業を行い(延べ参加人数約300人)、ハット市からの英語指導助手を中

学校に配置、市役所職員の派遣、平成21年より隔年でハット市の小中学生の受け入れ事業を行っている。市長室には、日本の絵画や美術品が飾られている。大変気さくな人間味のある方であった。

## 5. 高齢者施設での交流

今回の視察研修は、Woburn Apartments ウオーバーン・アパートメンツ プティック・リタイアメント・コミュニティであり、Lower Hutt の中心部に位置する新しいモダンなアパートメントスタイルは高齢者のために建築された。

2015年にオープンした47のアパートメントと、2017年9月20日に39のアパートを持つステージ2がオープンした。そのステージ2を訪問した。ここでは、前もってリンダ夫人を通して依頼したアンケート



死生観の聞き取りに協力して下さる高齢者



折鶴を手渡し和やかに歓談



お茶会



楽しんでいる高齢者たち



高齢者施設の前で

「死生観」の回収と回収時、内容の聞き取りを行った。その他の同行者は、事前に用意した鶴と兜をお土産として手渡すと同時に、鶴と兜などの折り紙を一緒に折りながら楽しんだ。夫婦での入居者や一人での入居者等いろいろであったが、一部の高齢者を除いて、ほとんどの高齢者は意思の疎通が可能で、着ているものも華やかな装いであり、表情もよく恵まれた生活を送っているようであった（写真参照）。

アンケートや聞き取りの結果、外国人は「キリスト教など宗教を持っている」と考えていたが、「宗教によって救われる」に否定的であるなど「宗教が重要でないと考えている被験者」が半数を占め、生活満足度は高く、人生について心配はなく自分の人生を受け入れて、何の心配もないという方が多く、日本人とは異なった死生観を持っていると感じた。

ニュージーランドの高齢化率 11.9、日本は 28.0 であり、介護ケアはニュージーランドでは「民間主導」、日本では「行政主導」であり、平均基礎年金の額がニュージーランドは月額 12 万円、日本では 6 万 5 千円となっている。

## 6. ハット市とお別れする時の ハプニング（暖かい心に触れて）

充実した 1 日のスケジュールを終え、ホテルで荷物を受け取り空港へ出発する時、お見かけした覚えのある白髪の高齢者が走り寄ってきた。何かと思っていると、手編みの靴下を 4 足半くくださった。「4 足半というのは 4 人分は両足分出来上がっていたが、あと一人分が片足しか出来あがってないため片足のみとなった」とのことであった。遠い道りを私たちのために届けて下さった思いに深く感動した。この日、エプニ小学校を訪問したとき、近く THE



THE REMAKERY で編み物をしている人と歓談

REMAKERY に立ち寄った。ここで「編み物」をしている方に出会い、2 本針で編み物をするのは日本人と思い込んでいた私は、いろいろ話を聞いた経緯があった。その方が、ホテルまで届けてくれたことに大変感激した次第である。その時の写真といただいた靴下（1 足分）の写真を掲載する。

この後、ウエリントンからオークランドへ移動し、



戴いた手編みの靴下

オークランドの空港近くに宿泊した。夕食はホテル内でミーティングを兼ねて行った。

## 7. オークランドにおける 「ママさん座談会」

「子どもが喘息のため空気の清浄なニュージーランドへ移住した」「夫がニュージーランド人なのでニュージーランドに住んでいる」「ニュージーランドで初の日本人助産師(ミッドワイフ)の免許を取得した」等々、子育て中の日本人の母子を対象として「ママさん座談会」を開催している。この日は 11 回目の開催で、5 人のママさんが子供を連れて参加されていた。

帰国後、最新の「ママのプログ」投稿記事が掲載されていた。楽しかった 11 回目の「ママさん座談会」として、記事と写真が掲載されていたのでここに紹介する。

昨日は、11 回目の「ママさん座談会の日でした。今回は、日本から子供や食を中心とした教育や文化を研究されている大阪青山大学の先生方も、一緒に座談会をさせていただきました。さすが皆さま、ママさんの先輩方で私にとってもとても勉強になりました。！  
たとえば、およそ 9 歳くらいまでには、こどもの味覚というのは出来上がるようなので、それまでに（できたら 3 歳くらいまでに）いろいろなものを食べさせた方がいい！そうですよ。

はるか遠い彼方のニュージーランドで、生活している日本人の皆様が、助け合って生活している様子を目の当たりにして、応援したいと心から感じた一時であった。





カフェにて「ママさん座談会」

## 8. オークランドでの昼食場所と子羊の見学

この日は、ママさん座談会の後、午後より日本語補習学校を見学予定であったので、子羊のいる公園の見学と公園内にある BISTRO で昼食をした。ウェイターは日本に留学した経験のある青年（妻は日本人、日本語が流暢）であった。昼食は3種類の肉を使ったランチであり、希望を聞かれた。子羊のステーキを注文した方もいたが、筆者は牛を希望した。日本語補習学校の校長先生を招き、事前の説明を受けながらの昼食であった。昼食後日本語補習学校へいき、カリキュラム等の特殊性について説明を受けて見学し、生徒たちとも面談をした。

## 9. クライストチャーチでの一日

クライストチャーチは、19世紀半ばから始まったイギリス人の入植の影響を受けた英国風の建物がたちならぶ美しい街。1日間はクライストチャーチで楽しんだ。記憶にも残っているクライストチャーチ地震、2011年2月22日M6（津波なし）、死者185名（内日本人28名）。痛ましい地震で壊滅的な被害を受けた現在も再建途中。特筆すべきは、カードボード・カセドラル（震災で倒壊した大聖堂の代わりに建てられた大聖堂）。日本人建築家、坂茂氏の手によるもので、特殊な紙パイプとポリカーボネートを主材料としている。広々とした内部の調度品などの紙素材を使用している。入口上部にはカラフルなステンドグラスが鮮やかであった。

TRAM ～ CITY TOUR ー：トラムによるクライストチャーチ市内観光は\$25（\$1 = 87.61円）

であった。2/3は回ることができたが、時間の関係

で一周できなかった。桜が至るところで満開であったことが印象的であった。



## 終わりに

6日間の研修で特筆することは、学科を越えて各教員間の交流、今後の研究のテーマと内容を深めることにつながることを実証された。この海外研修で、準備の段階でお世話になった箕面市多文化交流センターの方々、出発時にはお見送りを受けての出発に心が引き締まる思いにかられたこと。そしてなにより、ハット市のリンダ市長夫人の綿密な計画のうえ有意義な研修旅行となったこと。紙面の関係で今回の報告には省略したが、心理学のライアン博士との安楽死・死生観等のミーティング、食育の研修で、ヘルシーコミュニティアドバイザーのアダムス氏・ヘンリー・ホーン氏と、ハット市の子どもたちの食生活について話し合ったこと、顔を突き合わせてのミーティングで大変実りある興味深い研修であった。

## 引用文献

- 1) 荻野克彦. ハット市の多文化共生, 公益財団法人 箕面市国際交流協会. 1-5, 2015.